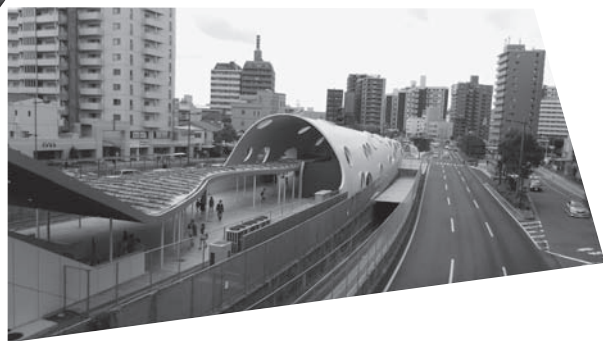


3 月号
VOL. 501

土會奈良



SHIKAI

2018 NARA

表紙のことば

今号をもって表紙の担当は卒業、テーマは「私、建築。」です。
法隆寺金堂（写真：上）

最も長い時間を過ごした斑鳩町、世界遺産の法隆寺があり、西院伽藍の中心となる金堂は、現存する木造建築の中で最古の仏堂です。入母屋造の上層の屋根は2方向、下層の屋根が4方向へ流れている形状は優美で、上層と下層を繋ぐ支柱に巻き付けられた龍の彫り物は、荘厳な雰囲気を感じ出しています。昭和24年の火災により壁画が焼損し、文化財保護法制定の契機になりました。

豊田市の大学（写真：左）

建築士としての礎を築いてくれた母校です。写真の校舎では、設計で悩んだとき、窓から這い出てデッキに腰を下ろし、景色を眺めてリラックスしていた思い出もあります。HOME COMING DAYを利用して25年ぶりに訪れましたが、校舎の老朽化が進み、あの輝かしいコンクリート打放しの面影はありませんでした。新校舎でなければ生徒が集まらないという意見もありますが、最適な維持管理と機能の保全により、良質なストックとして活用していくことも重要かと考えています。

新白島駅（写真：右）

広島市の中心部から北に1.5km、交通量の多い国道に挟まれた中央分離ゾーンに、周辺施設と仕切る形で巨大な構造物が出現しました。JR山陽本線が交差する位置に乗換駅として、アストラムラインの新駅「新白島駅」が建設されました。半円筒形の白い鋼板シェルに丸い穴を設けることで、自然の光・風を内側へ採り込む構造になっています。波を打ったようなデザインの連絡通路屋根は、まるで人生です。建築家を対象にした意匠設計者と建設コンサルタント（土木系）が協働して優れた空間づくりができた駅舎であり、私のお気に入りの1つです。

太陽の塔（写真：下）

1970年に吹田市で開催された日本万国博覧会のシンボルとして建造され、芸術家 岡本太郎が制作した代表作の1つです。構造規模は、塔の高さが70m、基底部の直径が20m、腕の長さが25mで、未来を表す上部の黄金の顔、現在を表す正面胴体部の太陽の顔、過去を表す背面に描かれた黒い太陽の3つの顔がデザインされています。府民の1人として、未来永劫と大阪関西の発展のため、2025年に再びこの地で万博が開催されることを祈願いたします。

（写真・文 情報・広報委員会 水守寛敏）

情報・広報委員会

委員長 松尾 憲治

副委員長 折目 貴司 大倉 克之

委員 乾井 哲 水守 寛敏
松村 泰徳 小松原寛俊
崎山 泰正 福本 保治
藤井 靖彦 宮浦 重彦
福田 成生

Contents

001

和室部会“温故知新”改修工事
現場見学会

002

国立大学法人奈良女子大学
第3回 自然と共生する住まい

004

第60回建築士会全国大会「京都大会」
レポート

005

連合会会長表彰・ヘリテージマネージャー大会—第60回建築士全国大会京都大会にて—

006

青年委員会報告・女性委員会セッション

007

街中まちづくり部会、歴史まちづくり部会合同セッション

008

合格祝賀会、平成30年新年大交歓会

009

お知らせ
ホームページ・ヘッドライン、
「建築甲子園」 他



女性委員会 和室部会 “温故知新” 改修工事現場見学会

昨年の12月17日（日）に女性委員会和室部会主催の見学会が開催されました。改修工事中の現場3件、旧妙楽寺子院 慈門院（客殿・庫裏等）、菅生銘木市場を見学させていただきました。

まずは民家型住宅主屋（明治期）の再生現場へ。伝統工法のつし付2階建て住宅で、限界耐力計算による耐震改修や断熱改修について設計者自ら解説してくださいました。施工者からは技術的なことや苦労話等もお聞きでき、住まい手だけでなく多くの協力者の思いがあり、暮らしとともに育まれてきた環境が住み継がれていくのだとあらためて感じました。



〔住宅の改修現場〕

次は、旧京都相互銀行（大正期）へ。大正ロマンが感じられる木筋コンクリートレンガ造りの建物で、空き店舗からレストランへ活用されます。外皮のみ再利用され内部は鉄骨造、外皮の木張り部分に木造の名残が感じられます。鉄骨階段は別構造にしないといけない等、行政との調整が難しかったとのこと。実務に携わる参加者からは多くの質問もありました。その後、旧材木商邸宅の茶室・蔵・主屋（明治期）へ。空き家から宿泊所への活用プロジェクトで、観光案内所としても利用されるようです。格調高いお屋敷の1棟貸しで、既存建物の良さを最大限残す方向で改修されています。後者2つは行政と市民が協力した「桜井市商店街のまちづくり」の取り組みだそうです。

和室の見学時には材木の話題で盛り上がる和室部会。材木選びの目を養う為に菅生銘木市場へ。床柱コーナーでは人しぼと天しぼの経年変化の違いを教えてください、多くの銘木についてお話を聞くことができました。板材もどのように仕上げるができるのかと考えながら、使い

たい材木を見つけてみたり、楽しい時間はあっという間でした。



〔菅生銘木市場〕

最後に、現在登録有形文化財申請中でもある旧妙楽寺子院 慈門院へ。客殿の襖絵や小屏風「庭之図」を手本として作庭されたとされる庭園を拝見しながら、重森三玲氏が調査に来られた時のお話も伺うことができました。

寒さも一段と身にしみる時期でしたがお天気にも恵まれ、とても楽しい一日となりました。用途、工法、目的と様々な改修現場を1度に見れる有意義な時間ありがとうございました。商店街の利活用建物は完成後にまた訪れてみたいと思います。



〔参加者集合〕

（記・郡山支部 小笠原香代）



国立大学法人 奈良女子大学 生活環境科学系住環境学領域の教育研究の現状とビジョン

第3回 自然と共生する住まい

はじめに

私が学生時代に所属していた研究室は、かつては西山刈三先生が担当されていた地域生活空間計画講座というところでした。奈良女子大学に奉職する以前は、それほど意識していなかったものの、2007年の着任にあたって、研究室の名称を、「生活空間計画」研究室とつけました。住環境学科は、かつては京大西山研から来た教員が多く、私から見ると2、3世代前になると思いますが、本学科の中心である住居学講座を確立し、教育研究に携わっておられた扇田信先生などは、西山先生の『日本のすまい』を読んでいると、「いついつ扇田とどこどこへ民家調査に行った」などと書かれています。すでに学生時代の活動内容は、西山研とは違いましたが、同じ講座名のところから本学に来たことを着任時には感慨深く感じました。同時に、ローカルでも普遍的に教育・研究を進めたいと思ひもあり、旧西山研の講座名から一部分を拝借して研究室名にしたという経緯です。

分野的には、建築計画学に属していますが、奈良で活動してきたため、近年は町並みや景観などにも興味を持って教育・研究をしており、2015-16年度には、桜井市の町家・景観調査を研究室の大学院生中心で実施し、これを元に大神神社周辺の景観計画の基準の具体化などにも研究室の活動として関わらせてもらいました。一方で、ずっと海外の住宅調査を行ってきたり、機会があれば、いくつかのプロジェクトを実践したりもしてきました。今回は、そうした中から、3つの教育・研究活動について、自然や環境と共生する住まいというテーマと関連して紹介します。

1. スラバヤ・エコハウスプロジェクト(図1)

少し前になりますが、インドネシアの第二の都市スラバヤの工科大学のキャンパスでの熱帯型のエコハウス実験プロジェクトの基本設計、現場管理に関わりました。当時、建築研究所に勤めると同時に建築家でもある小玉祐一郎先生(現:神戸芸術工科大学名誉教授)のイニシアティブで、旧建設省のODAプロジェクトとして、京都大学の布野研究室(計画系)・銚井研究室(環境系)が加わり共同研究を行ったものです。

環境共生住宅は、基本的に北ヨーロッパや北米などの寒冷地で発展してきたものなので、日射や地熱などを取り入れながらも、基本的にはエネルギーを建物内に閉じ込める「閉鎖系」の考え方を取っていました。しかし、熱帯では日中に閉じた部屋に籠もるのは考えづらく、このプロジェクトでは、「ポーラス(多孔質)」をキーワードに、「開放系」で外気を取り入れることによって、熱帯で涼しく暮らせる住宅モデルを目指しました。

具体的な技術としては、地下水を汲み上げて床スラブを

循環させることによる躯体の冷却(図1右上)、大屋根とその内部の空気層、吹抜を用いた熱気の排出(同左下)、室内では、フラッシュやジャロジーの窓を使い分けた室内換気、などが考えられています。また、中空層を持つ多層大屋根には、通常熱帯では食用後に捨てられてしまうココナツの実の繊維を、防虫処理を施した上で断熱材としてエコロジカルに再利用する試みも行いました。このプロジェクトには、日本とインドネシアから環境系の博士課程の学生も関わり、2名の博士論文の執筆テーマにもなりました。

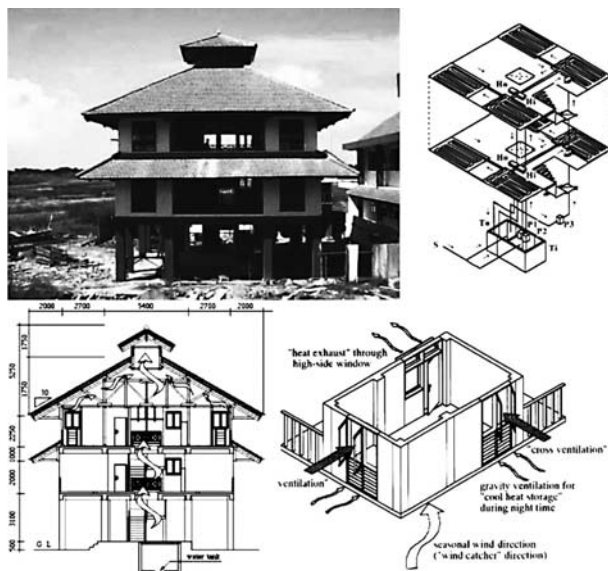


図1 スラバヤ・エコハウスプロジェクト

外観(左上)、地下水循環冷却システム(右上)、大屋根と吹抜による熱気排出(左下)、室内の空気の流れ(右下)

2. SSS(Sakan Shell Structure)プロジェクト(図2)

インド洋大津波の発生時は、実は私自身、スリランカの海岸沿いのゴールという町にいて、第二波、三波と襲ってくる津波を目前に逃げた経験があります。そうしたこともあり、その後、本学に着任した頃には、インド洋大津波で大きな被害を受けたインドネシア・スマトラ島のバンダ・アチェという町の仮設住宅と災害復興住宅の調査を行っていました。仮設住宅は、バラックと呼ばれる長屋でした。スリランカやスマトラの経験は、このSSSプロジェクト(原案:森田一弥+柳沢究+山田協太)を進めようという強い動機になりました。

仮設住宅は、通常、被災地に早く供給することが求められるため通常は、プレハブの乾式構造が多いのは周知のとおりです。一方、このプロジェクトでは、ボランティアなど、非熟練の人たちでも、仮設住宅建設に参加できるようなモデルを提示することを目指しました。卵の殻のような薄いシェル構造でできていて、実物は頂部15mm、足元でも30mmの厚みで非常に軽いものになっています。壁などが重



生活空間計画研究室

山本直彦

略歴：奈良女子大学生活環境学部住環境学科・准教授

京都大学工学部建築第二学科卒業、京都大学大学院博士課程修了
インドネシア・スラバヤ工科大学留学、デンマーク王立オーフス建築
大学助手、立命館大学専任講師、滋賀県立大学講師を経て現職。

著書に、『テキスト建築意匠』（共著）、『日本の建築意匠』（編著）など

賞罰：日本建築学会奨励賞、日本建築学会優秀修士論文賞、JCDデザイン
アワード2008・BEST100 (Sakan Shell Structure)

い材料でできていると、余震が起きれば、再度、倒壊、被害の可能性があります。軽いシェル構造は、そうした心理的圧迫感を取り除くと同時に、被災時のロジスティクス低下の影響をなるべく避け、最小限の材料で建てるのが可能で環境負荷の少ないものだと考えました。

建物としての面白みは、その工法にあります。シェル構造は、型枠を必要としますが、歴史的に見ると型枠大工の手間賃が高くなっていくと同時に、すたれていってしまいました。このプロジェクトでは、ユニットが小規模であるが故に可能なのですが、型枠に空気膜を使用しています。実際の施工時には、ホームセンターで入手可能な普通のフロアー2台を使用し、これを72時間連続運用したのちに、空気膜を外しました。材料は、ガラス繊維で補強したモルタルで、鏝で塗りつけています。空気膜は、もちろん再利用可能でHAT神戸の防災イベント（プラスアーツ主催）で、もう一棟建設しました。アーチ型の開口部は、複数のユニットを連結するため、シェル面から少し端部が立ち上がっています。床は三和土としましたが、左官の専門家（久住誠さん）に指導してもらい学生たちと一緒に施工しました。

実大棟の建設に先立って、1/3大の試験体を2つ作成して、それぞれ垂直荷重（逆トーナメント状に重りをぶら下げた長期加重）と水平荷重（地震動を模した振動台による短期荷重）破壊実験も行っています。試験体のシェル厚は、3～5mmと限界まで薄くしましたが、卵状のシェルは、70～80kgの重りに耐えましたが、崩壊時には、一気に崩れるという問題があることも分かりました。



図2 SSS (Sakan Shell Structure) プロジェクト

外観（左上）、内観と三和土の床（右上）、空気膜型枠（左下）、構造実験用の1/3大の試験体作成（右下）（施工協力：久住左官）

3. ネパールでの町並み・民家フィールドワーク（図3）

7、8年前から、毎年夏に、ネパールの歴史都市の調査にも行っています。カトマンズ盆地には、世界文化遺産に登録された町並みが残っていて、博士課程の大学院生を中心にバクタプルという町について調べてきました。映画リトルブッダのロケ地になった町です。最近、カトマンズ盆地の研究が一段落したこともあり、ヒマラヤのムスタンという地方で伝統的な村落や民家の調査も始めました。ムスタンでの調査地は、7000mクラスの山々が垣間見える標高3,000m近くにある村です。今でこそ多くのトレッカーが訪れるものの1990年代までは鎖国されていました。そのため伝統的な民家や生活がよく残っています。標高が高く乾燥した気候で昼夜の寒暖差が激しく、おまけに昼前からは台風並みの強風が毎日吹きます。乾燥地帯など気候の厳しいところでは、中庭型住居が見られることが多いのですが、ムスタンの村も例に違わず中庭式の素晴らしい住まいが密集しています。

この地では、政情が不安定だった数世紀前までは、山の斜面に穿たれた洞窟に人々は住んでいたそうです。中庭や路地に立ったときに感じられる土の中に埋もれているような感覚は、まさにゲニウス・ロキ（地霊）の発現そのものと確信できます。土で仕上げられ幾重にも重なった水平の屋根面は、農作業のワーキングスペースでもありますが、ヒマラヤの地形や地面そのものです。厳しい気候で作られてきた伝統的な住まいは、人間とその生活を深く支えていて、その感覚を体に十分にしみこませることが、住居や建築を教える者も学ぶ者も、ともに持つべき最も重要な教養であり体験だと確信させられました。



図3 ヒマラヤのムスタン地方の村落調査

調査村落と自然環境（左上）強風に吹かれる屋根上での調査（右上）、調査村落の3Dモデル（下）作成：川辺聖子



第60回建築士会全国大会「京都大会」レポート

第60回建築士会全国大会「京都大会」が、京都府京都市で平成29年12月8日に開催されました。会場は「京都市勤業館みやこめッセ」京都最大級のイベント会場・展示場で行われました。京都市内東部に位置し「岡崎」とも呼ばれ、近くには平安神宮の他、京都市美術館・動物園等もあります。

【京・都・楽・洛おこしやす】テーマは『山とまちと木造建築』です。

まず、オープニングセレモニー『^{チョウナ}鉦始め』の儀式が番匠保存会の方々により執り行われました。平安時代から番匠（御所務めの大工）により安全を祈願するために、新年や建築現場での仕事初めの時に行われてきた儀式です。特に京都で行われるものは鉦始めの原型とされています。



『^{チョウナ}鉦始め』の儀式

京都府建築士会大会実行委員長の黒木幹雄様の開会宣言から始まり、京都府建築士会会長後藤照夫様の開催地会長開会挨拶、国歌斉唱・物故者追悼・主催者である日本建築士会連合会会長三井所清典氏の挨拶、来賓祝辞・国土交通省石井啓一様代理、大臣官房審議官真鍋純様、京都府知事代理、京都府建設交通部技監松村徹也様、京都市長門川大作様、大韓建築士協会会長趙忠基様から祝辞を頂きました。



京都市長 門川大作様

会場来賓者紹介、祝電披露、主催者加者紹介（ブロック、連合会役員等の紹介）と続けました。

表彰式では①功労者連合会・会長表彰 ②伝統的技能者表彰 ③日本建築士会連合会長表彰 ④地域実践活動表彰 ⑤会員増強表彰⑥建築士会周知ポスターデザイン最優秀賞表彰⑦名誉顧問（大韓建築士協会会長趙忠基様）の授与が行われ、我が奈良県建築士会から③連合会会長賞表彰に立辻利治様、水尾好秀様2名が表彰されました。

式典も後半に入り、京都府建築士会会長後藤照夫様・日本建築士会連合会副会長岡本森廣様とで、「大会アピール宣言の朗読」

- 一、木造建築の魅力を再認識し、さらなる啓発・普及を図る。
- 一、自然災害の被災者や既存住宅取引における消費者の安全・安心に、建築の専門家としての役割を十分に果たす。
- 一、地域社会に貢献する、多くの会員獲得に努める。



大会旗の引き継ぎ：京都 後藤様・連合会 三井所様・埼玉 江口様

最後に次回開催の第61回建築士会全国大会さいたま大会」埼玉建築士会への大会旗の引き継ぎが行われ（京都士会⇒連合会⇒埼玉士会）、会長 江口満志氏のご挨拶。京都府建築士会常任副会長 高田光雄氏の閉会の挨拶で式典は終了しました。

式典後、例年は、奈良県建築士会会員での懇親会が行われていましたが、今回は大交流会「京都居酒屋物語」に参加しました。グルメ屋台や食事と美味しいお酒、さらには艶やかな舞妓さんの踊りとともに、全国の会員様との交流を深めました。

（記・情報広報 松尾憲治）

連合会会長表彰

連合会会長表彰を受賞して思うこと



私は第60回建築士会京都大会において連合会会長表彰を受賞いたしました。身に余る光栄と喜んでおります。沢山の士会の仲間よりお祝いの言葉をいただいて心よりうれしくおもいます。振り返れば過去に様々な事業に携わってまいりました。苦しい時もありましたが楽しかった事しか思い浮かびません。携わった事業は建築士会に少しでも貢献できた事と自負を致しています。そして今回の受賞を人生の通過点と考え技術・知識をさらに磨き皆様のお役に立ちたいと思っています。又、建築士会の発展の為にまだまだ建築士会の為に様々な提案や意見を発言し続けたいと思っています。元気で頑張ってます。最後に受賞にあたり沢山の関係者のご努力に心からお礼を申し上げます。ありがとう御座いました。

(記・桜井支部 水尾好秀)

連合会表彰ご挨拶



この度京都で開催されました第60回建築士会全国大会で連合会長表彰を受賞する機会を得ましたことは、多くの建築士会員が活躍し活動されている最中、委員会、支部長会、理事会の方々、携わった皆様から栄誉ある受賞者に推薦を頂きましたことを感謝しますと共に誠に勿体なくも有り難い事だとこの紙面を借りて御礼申し上げます。建築士会へは昭和40年代後半建築士に成った頃入会しましたが建築士会月刊誌を読む程度で、市役所の営繕職員は技術進歩に見合う研修も少なく建築雑誌から情報を得たり、旭屋書店、紀伊国屋書店で建築書物を読んでいました。昭和54年城下町らしさを伝える為近鉄郡山駅前に郡山署移転に伴い警部派出所の計画があり城を意識させる建物の基本設計をしてみよ、足らず予算は市が負担すると時の市長から命を受けました。この後郡山城追手門復原となりました、地域貢献とはシンボル建築物が重要であると考えます。昭和50年代後半から郡山支部に参加するようになり個々の建築に携わる建築士は社会的公共物を造っているんだと思うと共に建築士会のより良き発展を願うものです。どうも有り難うございました。

(記・郡山支部 立辻利治)

第5回全国ヘリテージマネージャー大会

第5回全国ヘリテージマネージャー大会は、「歴史的建築物の保存活用による地域創生」をテーマに平成29年12月8日(金)10時から12時まで「みやこめっせ」地階日図デザイン博物館展示室にて参加者274名で開催された。

大会では、古民家等の活用による地域創生活動の各地での最新の動向と活動を今後も続けていくため、建築士以外の多様な人たちとの連携について議論された。

兵庫県からは、一般社団法人ノオトの金野幸雄氏が「古民家再生による地域創生(篠山モデル)」について発表があり、兵庫県篠山市の「篠山城下町ホテルNIPPONIA」及び古民家の宿「集落丸山」で、古民家等を宿泊施設やレストラン等として活用した事例の報告があった。この事例の後、全国各地で同じような再生事業が始まり、国でも建築基準法、旅館業法、文化財保護法等の見直しが進められているとの発表があった。

京都府からは、KOMO代表の桐谷邦夫氏から、「KOMOの多彩な人材による活動」について発表があった。

KOMOは「古材文化文化の会・伝統建築保存・活用マネージャー会」としてヘリテージマネージャーの役割をより実践的に活動を目指す人々の会として発足した。

会員は建築士や建築士以外の方も参加し、京都以外の近畿各府県や全国にいて、活動も美山町(南丹市)北集落保存会の方との交流や、鳥取・熊本など被災地の応援と報告会等を行っているとのことであった。

兵庫県のひょうごヘリテージ機構、沢田伸氏から「兵庫における人材育成の新展開について」として、2001年度にHM養成講習会を始め10数年になる。歴史文化遺産の活用には、建築士だけではなく多様な人たちとの連携が不可欠であることを確認し、今年度は、HMIに加え、ヘリテージコーディネーター(HC)とヘリテージサポーター(HS)の3種の養成を行い、また今後は観光、不動産などのテーマのアドバンス講習会を実施する予定との発表があった。

奈良県からは奈良ヘリテージ支援センター、高安秀和氏より「奈良県における歴史的建築物活用と地域銀行の融資について」として、HM育成講習会の修了者で奈良県建築士会内に「奈良ヘリテージ支援センター」を設置し活動を展開中。

活動事例として「地域銀行との連携」がある。南都銀行と奈良県建築士会で協定を締結して「事業用町家利活用融資」が実現した。改修資金等の融資に際し「センター」が発行する専門家の「意見書」の提出を求めるもので、現在2件が融資を受けている。との発表があった。

4名の他、熊本土会の山川満清氏から「熊本地震その後」の発表があり、熊本地震発災から1年8か月が経過し本格的な復旧事業に移行してきた。特筆事項として、熊本県が被災した未指定の歴史的建造物への助成事業を立ち上げた。

事業の認定等にヘリテージマネージャーが関与することとなっている。今まで行ってきた文化財ドクター事業を復旧支援に活用し、助成制度の円滑な運用の支援や、所有者の文化財保全意識を高め、歴史的建造物の価値を損なわないようすることに寄与していく。との発表があり、最後に塩見運宮副委員長から挨拶があり大会は、閉会した。

(記・奈良支部 高安秀和)

青年委員会 第60回建築士会全国大会 「京都大会」に参加しました

第8回全国青年建築士フォーラム in 京都、青年委員会交流セッション

昨年12月8日、全国の建築士が一堂に会し、事業発表や交流会を通じて広く意見交換を行い、課題を共有・考察することのできる場として、「京都市勧業館みやこめッセ」をメイン会場に第60回建築士会全国大会「京都大会」が開催されました。

青年委員会では全国大会に先立ち、第8回全国青年建築士フォーラム in 京都が開催され、奈良県からは17名の青年メンバーが参加しました。冒頭、京都府青年部会による六原学区のまちづくり事業について発表があり、その後、15人程のグループに分かれてテーブルディスカッションが行われ、各地のメンバーと意見交換を行いました。また、懇親会では全国のメンバーが見守るなか、サプライズで奈良県メンバーの結婚報告があるなど、和やかな雰囲気のなかで参加者の交流を深めることができました。



翌大会当日は、青年委員会セッション「地域実践活動発表会」に参加しました。これは、全国の各ブロックで優秀事業に選出された7つの事業の発表を行い、活動の共有を図ると共に、参加者の投票によって最優秀賞を決定するというものです。着目点は様々ですが、これからの建設業界に向けた一般参加型事業や、防災について地域の方々を考える事業、子ども達と景観を学ぶ事業など、我々が得られるものは多く、発表者のアピール力や情報のまとめ方なども大変勉強になりました。最優秀賞は長野県建築士会の「風穴のある場所の価値」が受賞し、地域が持つ魅力を専門家が発掘し地域活性化につなげる事の尊さと、地に足の着いた地道な活動の値打ちに改めて気付くことができました。

さて、今年は10月26日「さいたま大会」です。近畿ブロック代表は奈良県青年委員会「五感で感じる木の事業」が選出されました。みなさま是非ご参加下さい。

(記・青年委員会 桑原正弘)

女性委員会 第60回建築士会全国大会 京都大会セッションの報告

■女性委員会+福祉・防災まちづくり部会合同セッション

大会午前中に開催されるセッションは、例年は連合会女性委員会単独であったが、今大会は福祉・防災まちづくり部会との合同となり、12月8日10時から京都市勧業館「みやこメッセ」特別展示場Bで開催された。

▷挨拶 日本建築士会連合会防災まちづくり部会長

▷ステップ1：女性委員会からの活動報告

- ・連合会女性委員長小野全子氏より、平成29年度第27回全国女性建築士連絡協議会の報告があった。また、サブテーマが「和の空間を考える」だったことから、「魅力ある和の空間」ガイドブック(データ版)が30年夏に制作されるに至った経緯などが報告された。
- ・連合会女性委員小林淑子氏より、福祉避難所の現状報告と仙台市へのヒアリング結果が報告され、福祉避難所の今後の課題として、地域の理解と協力が得られるよう努力することとコミュニティ形成が必要であるとのこと。

▷ステップ2：防災まちづくり部会からの活動報告

- ・連合会防災まちづくり部会長佐藤幸好氏より、連合会及び単位士会の防災まちづくり部会の運営について説明。
- ・連合会防災まちづくり副部会長中西重裕氏より、「木造応急仮設住宅供給に係る建築士会等連絡会議」の設置準備状況の報告があった。

▷ステップ3：福祉まちづくり部会からの活動報告

- ・連合会福祉まちづくり部会長中村正則氏より、行動計画の説明と、地域リーダーへのアンケート結果報告があった。
- ・連合会福祉まちづくり部会員本多健氏より、「オリパラ東京2020」と「福祉まちネットワーク」のお願いがあった。
- ・東京建築士会益子孝祐氏より、十津川村の復興からの集落づくりについて報告があった。

▷ステップ4：パネルディスカッション…「コミュニティケア型仮設住宅地を考える」

中村福祉まちづくり部会長をコーディネーターに、ステップ2・3の活動報告者がパネリストとなって、テーマについて様々な意見交換され、地域コミュニティからの協力が重要と締めくくった。

(記・女性委員会 本保万貴子)



〈街中(空き家)まちづくり部会と歴史まちづくり部会 合同セッションより〉

(発表者 桜井支部 中尾七隆)

歴史的価値のある空き町家等を活用し、景観を保全・修景しつつ、地域活性化に繋げるためには、「空き町家利活用の推進体制を確立すること」と「建築基準法上の現状の課題について改善する必要がある」という内容で発表させていただきました。

●空き町家利活用の推進体制について 〈コンセプト〉

目的：(景観・歴史・観光) まちづくりのサイクルを回す

- ①地域資源発掘発信；町家調査～マップ・案内板作成
- ②集客を図る；歴史街道と空き町家活用しイベント開催
- ③雇用を生む；空き町家利活用し、新規雇用・創業支援
- ④移住・定住；空き町家をパッケージ化し、生業確立へ

〈最近7年間の活動経緯〉

ステップ1；まちづくり協議会を発足し、奈良県地域資源発掘発信事業に取り組む。居場所となる「たまり場」設置。
ステップ2；市長へプラットフォームの必要性を要望し、副市長を座長とする官▶民▶学▶金の横断的な検討会発足。結果、まちづくりビジョンを作成し、市長へ提言～実施へ。
ステップ3；市▶商工会▶木協▶金融機関▶事業者と住民有志の出資により桜井まちづくり株式会社を設立。さらに、桜井駅南エリア周辺地区のエリアマネジメントを推進させるために都市再生推進法人の指定を受ける。

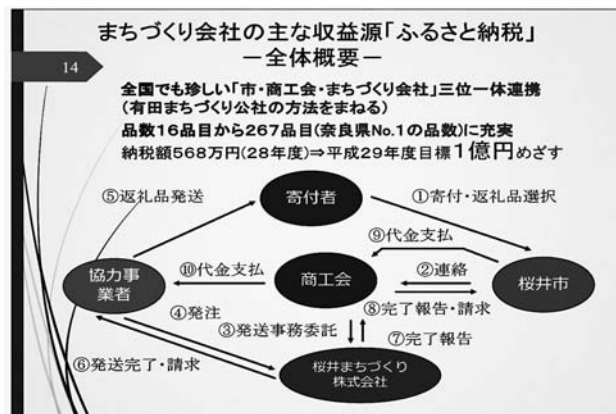
ステップ4；実施段階の最初としてモデルとなりえる事業開始。REVICと大和信用金庫（やまと観光活性化ファンド）の融資と市、国交省、MINTO機構の支援により、下記3つの歴史的価値のある空き町家・空き店舗を改修・パッケージ化し、観光活性化につながるよう取り組み中。

〈これからの取り組み〉

本大会のテーマでもあった「山～まち～木造建築とつながるまちづくり」を目指し、桜井まちづくり(株)が窓口となり、吉野林業の山守・市内外の製材所・事業者を含む建築士等が連携体をつくり林泊事業の応募に向け、準備中。

昨年9月から、ふるさと納税の返礼品業務を市より商工会が受託し、商工会と桜井まちづくり(株)が連携することで

〈まちづくり会社を持続可能にする仕組み〉

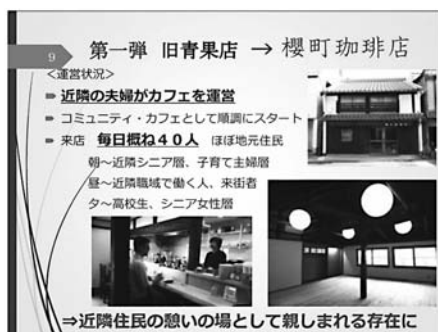


市域を超え商工会会員以外でも企画商品開発が可能となり、販路拡大を可能に。結果、4か月で6000万円を突破（昨年600万円弱／年間）し、その収益を地域循環させる方向へ。

●建築基準法の課題について

「歴史的価値のある町並み地域は、間口が狭く100㎡以下の既存不適格で確認申請不要な建造物が多く残存しているが、現状の建築基準法では、耐震性を高めるための改修（下記参照）をしても、過半の大規模改修や改築になる可能性が高く、怖くて設計を拒むケースもある。このままでは空き町家利活用は中々進まないことが懸念される。そこで、各地の事例など意見をまとめ、日本建築士会連合会として国土交通省に課題解決に向けた改善策を検討・依頼する必要がある。」という投げかけをさせていただきました。

- 例1）屋根の吹き替えに伴い、野地板など構造上優位にしても過半の大規模改修になる。過半が不明確。
- 例2）一つの箱階段のような急な階段を緩やかに合法的にしても過半の大規模改修になる。このままでは安全な階段改修をあきらめ、2階の活用が生まれない。
- 例3）耐震性能を高めるために新たに布基礎～筋交～柱を入れ替えると過半以下であっても改築となる。柱の過半以下という意味は、一本の半分以下のことで、根継ぎのことを意味するのか不明確。



大正時代の店舗を町家カフェに



大正時代の旧銀行をレストランに



明治時代の数寄屋建築を高級町宿に



青年委員会 一級建築士・二級建築士・ 木造建築士 合格祝賀会

2018年1月20日（土）に一級建築士・二級建築士・木造建築士の合格者を対象に、合格祝賀会を開催しました。

オステリアヒロ（奈良県奈良市大宮町 6-5-12 西垣ビル1F）で、18:00から20:00まで歓談形式で開催しました。



昨年8月に開催した一級建築士課題試験類似施設見学会の参加者の方で合格された方の中から3名と、新たにお声がけした一級建築士合格者の方2名に参加して頂きました。

合格者と青年委員会のメンバーは歳も近いこともあり、製図試験のことをはじめとして、普段のお仕事のことや、実務で悩んでいること等、色々とお話しながら建築士会の良いところや仲間づくりの大切さをPR出来たのではないかと感じています。

また、この事業の一環として、各資格学校の合格祝賀会にも参加させて頂き、建築士会のPR活動を行っています。県内の合格者自体が減少しているなかで、一人でも多くの方と仲間になることが出来ればという思いで、今後も続けていけたらと思います。

（記・青年委員会副委員長：藤本和宏）



総務・企画委員会 平成30年新年大交歓会

平成30年1月26日（金）ホテルリガーレ春日野に於いて、平成30年新年大交歓会を一般財団法人奈良住宅センター様の協賛を得て開催いたしました。

司会は、紀本澄男副会長で進められ、奈良県建築士会会長の洲上徳光会長の挨拶では、伊東豊雄講演会「建築の夢」・薬師寺食堂特別拝観及び、第60回建築士会全国大会京都大会等の事業への参加に対しお礼の言葉と、今年開催される全国大会埼玉大会への参加の案内がありました。



（建築士会会長 洲上徳光）



（まちづくり推進局長、金剛一智様）

次に来賓の挨拶にて、奈良県知事の代理として奈良県県土マネジメント部まちづくり推進局長金剛一智様からご祝辞を頂きました。また、昨年の第60回日本建築士会連合会全国大会京都大会において、郡山支部の立辻利治様と桜井支部の水尾好秀様が連合会長表彰受賞された事の紹介がありました。

つづいて、奈良県事務所建築事務所協会会長植村吉延様の乾杯で歓談が始まりました。



（水尾好秀様、立辻利治様）



（事務所協会会長 植村吉延様）

ブースコーナーでは、賛助会員様の展示を設けて、建築業務の参考資料とさせていただきます。

- ①株式会社インテコ様
- ②クマリフト株式会社様
- ③ケイミュー株式会社様
- ④サイカン株式会社様
- ⑤株式会社総合資格様
- ⑥トリスミ集成材株式会社様
- ⑦奈良不二サッシ販売株式会社様
- ⑧不二熱化学工業株式会社様
- ⑨株式会社CPU様

中締めとして本会の米村副会長に挨拶をいただきました。

（記・総務・企画委員会委員長 藤浪 通）



お知らせ

Information

●ホームページ・ヘッドライン（予定含む）

- 【桜井支部】 南京都名建築見学会
- 【郡山支部】 京都二条界隈散策～ぶらあり探訪
- 【生駒支部】 避難所運営ゲーム「HUG」を体験してみませんか？
「生駒市内の空き家の流通に関わる設計業務等
の受注について」説明会

●おめでとうございます。

平成29年度一級建築士試験 合格者一覧（敬称省略）

39名（奈良県）

森屋 巖	坂本 在人	関口 慎吾	金山 尚史
袋井 咲	川島 隆史	寺西伸太郎	田中 宏典
辻阪 聡志	山下 将司	永友 翔	上田 瑞穂
飯田 敏史	野口 翔司	北村 梢	山田 直人
南 貴博	安井 和生	米澤 美貴	米村 一成
野口 愛	笠置 和章	佐藤 大司	八町 和昭
中西 祐基	松本 翔子	松井 理	曹 森
澤井ひろみ	殿村 侑司	笹畑 紘充	総田 良樹
野口 一	中西 剛行	殿村 辰弥	半田 潤
藤木 温充	櫻井 壯	山本 貴之	
平成29年度二級建築士試験		56名（奈良県）	
平成29年度木造建築士試験		7名（奈良県）	

●2017高校生の「建築甲子園」奨励賞受賞

（公社）日本建築士会連合会主催の2017高校生の「建築甲子園」大会は、県内予選を経て本大会の審査結果が発表され、奈良県立奈良朱雀高等学校建築工学科の松山義広監督と選手4名（源内 拓人君、田中 宏樹君、宮田 要君、山田 健斗君）の応募作品「奈良ドリームタウン」が奨励賞を受賞しました。

この表彰のため洲上会長が2月2日（金）に奈良朱雀高等学校を訪問して、監督と選手に表彰状と副賞を贈呈しました。



●平成30年度建築士試験日程の案内

1 平成30年一級建築士試験日程（予定）

申込書配布	4月6日（金）～5月14日（月）
申込受付	5月10日（木）～5月14日（月）
「学科の試験」	7月22日（日）

「設計製図の試験」 10月14日（日）

2 平成30年二級建築士試験日程（予定）

申込書配布	3月30日（金）～4月23日（月）
申込受付	4月19日（木）～4月23日（月）
「学科の試験」	7月1日（日）
「設計製図の試験」	9月9日（日）

3 平成30年木造建築士試験日程（予定）

申込書配布	3月30日（金）～4月23日（月）
申込受付	4月19日（木）～4月23日（月）
「学科の試験」	7月22日（日）
「設計製図の試験」	10月14日（日）

※申込受付については（一社）奈良県建築士会にて行う他に郵送やインターネットでも受付できる場合があります。

※詳細は（公財）建築技術センターのホームページをご覧ください。

●平成30年度通常総会の日程（予定）

日 時：平成30年5月23日（水） 16：30頃～（予定）

場 所：ホテルリガーレ春日野

議 事：平成29年度事業報告及び決算承認
平成30年度事業計画及び予算承認

懇 親 会：18：40頃～（予定）

※正会員の皆様は、後日送付いたします通常総会の案内に付いている出欠表を提出いただきますようお願いいたします。なお、残念ながら欠席される場合には、必ず委任状も記載したうえでご返送頂きますようお願いいたします。

●平成30年度一級・二級・木造建築士定期講習についての お知らせ【第1期】【第2期】

平成30年度の定期講習は（一社）奈良県建築士会が受付を行います。

【第1期】

講習会日時：平成30年6月14日（木）

場 所：奈良県産業会館（大和高田市）

定 員：80名（申込先着順）

受付期間：4月2日～5月31日

【第2期】

講習会日時：平成30年8月22日（水）

場 所：ホテルリガーレ春日野（奈良市）

定 員：64名（申込先着順）

受付期間：6月1日～7月31日

※平成30年度の第3期以降の定期講習は日程、開催場所等の詳細が決定次第、随時会報誌等でお知らせいたします。

※詳しくは TEL 0742-30-3111までお問い合わせください。

新入会員の紹介 『よろしく』

氏 名	支部	勤務先	住 所	勤 務 先
吉 村 公 雄	橿原	634-0007	奈良県橿原市葛本町835-1	(株)礎建築事務所
伊 野 雄 二	橿原	634-0007	奈良県橿原市葛本町835-1	(株)礎建築事務所

新入賛助会員のご紹介

会 社 名	郵便番号	住 所	T E L
サ イ カ ン (株)	630-8115	奈良市大宮町5丁目4-1 スギタビル4F	0742-35-0323
(株) シ ー ピ ー ユ ー	540-0012	大阪市中央区谷町1-7-4 MF天満橋ビル4F A号室	06-6946-5311

編集後記

2017年5月号から表紙を担当させていただきましたが、今号をもって卒業します。本件を受けることになり、プレッシャーと不安でいっぱいでした。自ら撮影した写真で人を惹き付けることができるのか、前任者よりも技術力を落とすことなく、引き継いでいけるのかなどである。

まず、何をテーマに表紙を作っていくのか、表紙にできるような写真があるのかを整理しました。土会活動は人の集まりなので、人を素材にしたいと考えました。事業報告などで添付した写真は、文章を補足するためのものであり、とても表紙やカタログに掲載できるようなものではありませんでした。個人的な写真も普段から意識をもって撮影したものではなく、前任者のレベルには届きません。

そこで、建築探訪で集めた建築写真などを素材とし、それを切り貼りしてアブストラクションさせ

ることで、1つのコンテンポラリーアートにすることを思いつきました。皆さんが目にする機会の少ない近畿圏外の素材であれば、さらにインパクトを与えることができるのではと考えました。

しかし、どの作品も思ったようになりませんでした。カラー写真に対して掲載されるのは白黒であるため、全くイメージが変わってしまいます。白黒のプリンターでプリントアウトしたものと見比べても、成果品と比較すると差異があります。

反省点だらけの1年でしたが、悪戦苦闘しながら続けてまいりました。もう少し続けてみたい気持ちもありますが、プレッシャーから開放され、今はほっとしています。5月号からは各号ごとに作成者が変わります。魅力あるものばかりですので、ご期待してください。ありがとうございました。

(記・水守寛敏)

Calendar

2018年3月

- 4(日) 文化財建造物専門家育成講習会
- 10(土) 奈良の気候風土適応型認定住宅を考える研修会
- 15(木) 理事会
- 21(水) ☒ 春分の日
- 27(火) 監理技術者講習
- 30(金) 二級・木造建築士試験申込書配布
4/23まで

Calendar

2018年4月

- 2(月) 二級・木造建築士試験申込郵送受付
4/16まで
- 6(金) 一級建築士試験申込書配布
5/14まで
- 16(月) 一級建築士試験申込郵送受付
5/1まで
- 19(木) 二級・木造建築士試験申込対面受付
4/23まで
- 25(水) 監理技術者講習
- 26(木) 理事会

土会奈良 通巻618号

平成30年3月1日(発行隔月1回1日発行)

発行所 一般社団法人 奈良県建築士会
〒630-8115 奈良市大宮町2丁目5-7 奈良県建築士会館
電話 0742-30-3111 FAX 0742-33-4333
<http://nara-kenchikushikai.or.jp/>
info@nara-kenchikushikai.or.jp

発行責任者 瀧上 徳光
編集 (一社)奈良県建築士会 情報・広報委員会
印刷所 株式会社 明新社

奈良県の合格者の6割以上は総合資格学院の現役受講生！

平成29年 1級建築士 設計製図試験

奈良県
合格者占有率

No.1

奈良県 合格者占有率

64.1%

奈良県合格者39名中、当学院現役受講生25名

平成29年 1級建築士 設計製図試験

奈良県 ストレート合格者占有率

平成29年度
学科+設計製図

76.9%

奈良県ストレート合格者13名中、当学院現役受講生10名

※総合資格学院の合格実績には、模擬試験のみの受験生、教材購入者、無料の役務提供者、過去受講生は一切含まれておりません。 <1級建築士実績：平成29年12月21日現在>

開講
迫る!!平成30年度 1級・2級建築士
学科対策講座受講生
募集中!!お申込みは
お早め!1級・2級 建築士
1級・2級 管工事施工管理技術建築設備士
設備設計・設備設計1級建築士1級・2級 建築施工管理技術
宅地建物取引士1級・2級 土木施工管理技術
インテリアコーディネーター

総合資格学院

学院長 岸 隆司



総合資格

検索

Facebook「総合資格」で検索

スクールサイト

www.shikaku.co.jp

コーポレートサイト

www.sogoshikaku.co.jp

奈良校 TEL.0742-30-1511

奈良県奈良市西大寺町3-27 泉谷ビル 4F

近鉄大和西大寺駅北口から徒歩5分